



# 高原の風だより

2019（平成31）年3月 発行 <第15号>

## 木曽の特産品や観光をPR

～名古屋市栄の中日ビルで開田高原特産品フェア～

名古屋市中区栄のテレビ塔の近くに中日ビルがあり、その4階に長野県事務所をはじめ各県の事務所が多く入っていた。どの県事務所も観光案内所を併設していて観光物産展なども頻繁に行われてきた。

その中日ビルが老朽化により閉館することになり県事務所も年末には他のビルへ移転する、という話を伺い昨年12月4日、県事務所の協力をいただき木曽の特産品や観光をPRする開田高原特産品フェアを開催した。

当日は、村おこしグループ「開田高原倶楽部」の会員やみたけグルメ工場の組合員、友人など12人が参加。ビル地下1階のイベントブースでかいだそばを中心にすんきやかぶ漬け、ハクサイ、ダイコンなど特産品を販売するとともに観光パンフレットを配るなどして観光PRを行った。

### 40種類余りの特産品を持参 ～ 開店前から行列 ～

開催当日は車3台に分乗し荷物を詰め込んで朝6時に出発。順調に会場に到着し、9時半前から準備を開始。なるべく数多くの特産品を並べないと見栄えもしないし買ってもらえないだろう、と振興公社をはじめアースかいだ、霧しな、グルメ工房などから40種類余りの特産品を持参した。それらを並べたりポスターや横断幕を掲げたり、と予想以上に手間取り10時のオープン前からお客さんが並びはじめ、てんてこ舞いだった。予定時間より少し遅れていよいよスタート。



大勢の来客でにぎわうイベント会場



イベント終了後に記念写真に収まる参加者



お客に対応する西尾組合長

### 一番人気はかいだそば ～ グルメは商品完売～

やはり年末とあって年越し用やお歳暮にそばを求めるお客さんが目立った。予想通りかいだそばが一番人気で閉店前に完売した。また、すんきなどの漬物やおにぎりなどを持参したグルメ工房も全てを売り切った。日義の山芋やえごまオイルなども完売。その他の漬物や菓子類もますますの売れ行きを見せ、木曽の特産品と地域の魅力を少なからずPRできたものと考えている。

～多世代に豊かな出会いと楽しみを提供～

# おもちゃ美術館はふれあいミュージアム

昨年7月、議会広報の初任者研修が東京で行われ参加した。以前、町長が「おもちゃ美術館のような施設を将来的に考えていきたい」と述べていたこともあり、せっかくの機会だからと翌日、新宿にあるおもちゃ美術館に足を運んだ。木育に関するさまざまなコーナーがあり、大人でも大いに楽しむことができた。また、馬場副館長さんが私たちに気づき丁寧に別室で説明してくれた。「美術館が成功するか否か8割が人材です」という言葉がとても印象的であった。

そして余りに楽しかったので翌月、長野にいる孫たちを連れて再びおもちゃ美術館を訪れた。



ヒノキ材のボールを敷き詰めた「木の砂場」で遊ぶ子どもたち

## 廃校活用のおもちゃ美術館

～おとなも楽しいふれあいミュージアム～

1984年に東京都中野にある芸術教育研究所の付帯施設として開館したおもちゃ美術館。2008年、新宿区四谷の廃校になった小学校校舎に移転し、現在に至っている。

建物1階には赤ちゃん木育ひろばや研修室、収蔵庫などがあり、受付のある2階にはおもちゃのもりやグッド・トイ（よいおもちゃ）展示室、ミュージアムショップなどが。3階にはおもちゃこうぼうやゲームのへやなどが整備されていて、一日いても飽きない仕掛けがいっぱいある。

同美術館は、赤ちゃんからお年寄りまで多世代にとって豊かな出会いと楽しみを感じることができる「ふれあいミュージアム」を目指している。

## 木の香り漂うおもちゃのもり

～日本各地の職人が作った木のおもちゃが勢ぞろい～



木のおもちゃを楽しむ親子連れ

部屋（教室）ごとに楽しいおもちゃが一杯の同美術館。中でも子どもたちに人気があるのが「おもちゃのもり」。床は縦ひのきでできていて、ここは入口で靴を脱いで上がる。日本各地の職人が作った木のおもちゃが沢山あるが、中でも子どもたちに大人気なのが「木の砂場」。九州山地のヒノキで作った2万個の木のボールが敷き詰められ、子どもたちは寝ころがったりして大はしゃぎだった。

## グッド・トイ（よいおもちゃ）とは ～遊びを通じて夢を育てる～

人は遊びを通じて五感を磨き、コミュニケーション能力を養い、夢を育てる。グッド・トイ（よいおもちゃ）とは、その手助けができるおもちゃのこと。グッド・トイ展示室には、全国のおもちゃコンサルタントが選んだ笑顔あふれるおもちゃが沢山展示されていて、実際に手にとって遊ぶことができる。



展示の「よいおもちゃ」

## 自分たちの美術館 ～「一口館長制度」で寄付募る～

東京おもちゃ美術館はNPO 法人が運営しているが、行政からの補助金は当てにしていない。行政に頼りっぱなしになっていると補助金がなくなった時に運営が頓挫しかねないからだ。したがって、自分たちでさまざまな工夫をして運営している。その一つが「一口館長制度」だ。1万円以上の寄付をすると入口の壁に名前入りの積み木が掲示される。2008年の移転開館の際は「一口館長」の寄付を募り3000万円の寄付金が集まったという。このほかボランティアスタッフも大勢いて美術館を支援している。このように同館は多くの住民によって支えられている。



木のおもちゃで遊ぶ親子(上から木のボールが枝を伝わって転がってくる)

## 遊びを伝える案内人 ～ボランティアスタッフは約350人～

館内に入ると赤いエプロンをした人を多く見かける。この人たちは、「おもちゃ学芸員」と呼ばれるボランティアスタッフだ。年配のおばさんが多いが、みんなとても親切で丁寧に対応してくれる。おもちゃや遊び方の解説をするだけでなく、訪れた人たちに遊びの楽しさと喜びを伝えている。

「おもちゃ学芸員」になるためには「18歳以上で人と接するのが好きで、明るく元気な方」「月に2回以上、毎月継続的に参加が可能な方」といったような条件があるほか、2日間の養成講座(4千円)を受講することが義務付けられている。現在の登録者数は10代から80代まで350人ほどいるという。

## ウッドスタート宣言。 ～子育てに地元の木材を活用～

2016(平成28)年8月、木曾町が全国で24番目にウッドスタート宣言をした。ウッドスタートは、子育てに地元の木材を積極的に活用しようとする「木育」推進の取り組み。賛同する自治体などが「宣言」をして、地元の職人が地元産の木材から作った玩具を誕生した赤ちゃんへの祝い品として贈る。県内では塩尻市、信濃町、大桑村に次いで4番目。

調印式は東京おもちゃ美術館の多田館長が来町し行われた。誕生祝い品を贈られる親子も参加。5カ月を迎えた新生児には地元材で作った食器とスプーンのセットを、1歳を迎えたお子さんには木のおもちゃがプレゼントされた。

## スタッフの養成重要 ～計画的に育成講座開催を～

近年、環境を守り木の文化を伝え、日々の暮らしや遊びの中に木を取り入れる「木育」の取り組みが注目を浴びている。周囲を豊かな森林に囲まれた木曾町でも、木のおもちゃを通じて交流する拠点づくりの計画が上がっている。そこで成功の鍵を握るのが、馬場副館長の話にもあった「人材」だ。

昨年、町では身近な素材を使ったおもちゃの作り方から遊び方を指導できる専門家の育成を目的に講座を開催したが、今後も計画的にスタッフの養成を行っていくことが極めて重要だと考える。



杉の丸太に登って遊ぶ子どもたち

## 「東京おもちゃ美術館」のご案内

場 所：〒160-0004 東京都新宿区4-20 四谷ひろば内

開館時間：10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日：木曜日(2月と9月に特別休館日あり)

入館料：おとな 800円(中学生以上)

こども 500円(6カ月～小学生)小学生以下は保護者同伴

おとなこどもペア券 1200円

平日パスポート おとな 2500円(中学生以上/6カ月)

こども 1800円(小学生以下/6カ月)

アクセス：東京メトロ丸ノ内線四谷三丁目駅より徒歩7分 都営新宿線曙橋駅より徒歩8分

電 話：03-5367-9601 FAX：03-5367-9602



## はりきりご長寿列伝

北川<sup>のり</sup> 紀さん (80歳・木曾町福島) ⑫

私はNHKテレビの信州ふるさと通信員をやっていますが、イブニング信州の「はりきりご長寿列伝」では、高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。今回は木曾町福島の北川紀さんを紹介します。(1月15日放送)



### 糸を縫って絵が出来上がることが魅力 ～ 趣味は布目刺繍 ～

「糸を交差するように縫っていくことで絵が出来上がることが一番の魅力です」という北川 紀さん。趣味は木曾福島町職員として公民館に在職していた20代後半に出会った布目刺繍。いくつかの種類があるが、北川さんは主にクロス・ステッチを中心に50年以上にわたり作り続けている。クロス・ステッチは刺し方図(刺繍の設計図のようなもの)に従って、真っ白な布に×××と記号の通りの色で刺していく、とても細かく気の遠くなるような作業だ。



作品の題材は草花が中心だが、建物や人物などをはじめ面白いところではカレンダーを手掛けたこともあり、自宅前のバス停には刺繍のカレンダーを掲げてある。今まで数え切れないくらいの作品を作ってきたが、仕上げるのに小さいもので4、5日を要し、大きいものになると2か月以上かかることも。

「細かい作業なので目の悪い人はダメ。根気がないとできない」と話す北川さん。今まで作った作品の中で一番のお気に入りは「ローズとハーブ」。



お気に入り作品「バラとハーブ」。150色の糸を使い、2か月を要したまさに力作だ。北川さんは、作品を公民館や福祉施設などにも寄贈しとても喜ばれている。

「健康の秘訣は何ですかね?」と尋ねると「毎日好きなものを食べ、好きなお酒(主にビールと焼酎)を飲むことかな」と笑顔がこぼれた。自宅<sup>で</sup>刺繍に取り組み北川さん

## 私の本棚

### 『夏井いつきの超カンタン俳句塾』

(夏井いつき著・株式会社世界文化社)

私は、テレビは余り見る方ではないが、それでも毎週楽しみにしている番組がいくつかある。その一つが毎週木曜日の夜7時からのバラエティ番組『プレバト』。夏井先生が芸能人の俳句を「才能アリ!、ナシ!」と評価する。添削指導や出演者とのやり取りがとても楽しく視聴者を引きつける。私にとって遠い存在だった俳句が、最近は非常に身近なものとして感じられるようになった。自分でも一句詠んで見たくなるから不思議だ。そんな夏井先生の俳句入門書ともいえるのが本書。



<お詫び> 第14号の御嶽山の記事の中で、山頂手前のシェルター(避難壕)にアラミド繊維が使われていると紹介しましたが、シェルターには使用されていません。使われているのは二ノ池山荘の壁や屋根です。お詫びして訂正します。

## 編集後記

近年、豪雨や地震、噴火など自然災害が各地で続いています。異常気象のせいでしょうか今冬は雪が降りません。開田高原の冬のイベント「かまくらまつり」も初めて中止。夏の水不足なども懸念されます。遅くなりましたが第15号をお届けします。



編集・発行者: 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661 携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com